



平成 29 年 2 月 3 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 テ イ ツ ー
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 寺 田 勝 宏
(J A S D A Q コード 7 6 1 0)
問 い 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 藤 原 克 治
電 話 番 号 0 3 - 5 7 1 9 - 4 5 8 0

特別損失の計上、繰延税金資産の取り崩し及び業績予想の修正 並びに配当予想の修正（無配）に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、平成28年9月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、特別損失の計上、繰延税金資産の取り崩し並びに平成28年4月14日に公表した配当予想の修正について、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上見込みについて

当社は以下のとおり、策定中である中期ビジョンを視野に入れた事業構造改革の一環として、平成 29 年 2 月期第 4 四半期連結会計期間において、特別損失約 210 百万円を計上する見込みです。

(1) 減損損失

不採算店舗の閉鎖を見込むこと並びにその他の一部店舗の固定資産について資産の収益性が低下して投資額の回収が見込めなくなることから、平成 29 年 2 月期において、これらの店舗の固定資産について必要な減損処理を行うことにより、現時点において約 60 百万円の特別損失を計上する見込みであります。

また、店舗系基幹システムの開発費等をソフトウェア仮勘定に計上しておりましたが、コストの抑制による計画の見直し等により将来における投資額の回収が見込めなくなることから、必要な減損処理を行うことにより、現時点において約 90 百万円の特別損失を計上する見込みであります。

(2) 事業構造改革損失

事業構造改革を行うにあたり、本部機能の集約化により業務効率の向上と改善を図るため、東京本部を移転する計画であり、当該移転に要する費用と不採算店舗の構造改革費用として約 60 百万円を特別損失として計上する見込みであります。

2. 繰延税金資産の取崩見込みについて

当社は、当期及び今後の業績動向等を踏まえ、当社の繰延税金資産の回収可能性を検討いたしました結果、平成 29 年 2 月期において、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額約 100 百万円を計上する見込みであります。

3. 業績予想の修正について

平成 29 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	29,230	78	82	27	0.53
今回修正予想（B）	28,240	△390	△380	△750	△14.82
増減額（B－A）	△990	△468	△462	△777	
増減率（％）	△3.4	－	－	－	
（ご参考） 前期実績 （平成 28 年 2 月期）	29,236	3	6	△149	△2.95

平成 29 年 2 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日）

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	29,200	106	60	1.19
今回修正予想（B）	28,220	△360	△730	△14.43
増減額（B－A）	△980	△466	△790	
増減率（％）	△3.4	－	－	
（ご参考） 前期実績 （平成 28 年 2 月期）	29,165	182	△208	△4.12

（修正の理由）

当社は、前期のトレンドをベースに新品ゲームの有力タイトルの発売を考慮した上で売上高及び利益の計画を編成しておりますが、第 3 四半期の売上高は新品ゲームが計画対比約 92%、同じく古本等中古商材が約 89%となり、売上高及び利益ともに計画を下回る結果となりました。その後、当社最大の商戦期である第 4 四半期をむかえ、商戦に向けて実施した各種施策により 12 月の売上高は計画を上回ったものの、1 月は奏功せず低調に推移し、利益面においては一部商材の販売単価の切り下げ及び中古商材の低迷により粗利益率が悪化し、当該 2 か月ともに営業利益は大幅に計画を下回る見通しとなりました。2 月につきましても主要商材のダウントレンドが予想されるため、売上高及び利益ともに計画を下回る見込みであります。

また、策定中である中期ビジョンを視野に入れた事業構造改革の一環として、前述の減損損失及び事業構造改革損失の計上を見込み、加えて繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額を計上する見込みであります。

以上の状況を踏まえ、平成 29 年 2 月期の通期業績予想を修正することといたしました。

4. 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想（平成28年 4月14日発表）	—	円 銭 0.00	—	円 銭 0.50	円 銭 0.50
今回予想	—	0.00	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
（ご参考）前期実績 （平成28年2月期）	—	0.00	—	0.50	0.50

（修正の理由）

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置付けており、安定的な配当の継続を配当方針の骨子とし、経営基盤の強化と今後の事業展開に資するため内部留保の充実を図るとともに、業績に応じた配当を継続的に行うことを基本方針としております。

当期末の配当につきましては、年間で1株当たり0.5円とする旨お知らせしておりましたが、連結及び単体ともに純損失を計上する見通しであることを勘案し、誠に遺憾ではございますが期末配当は見送らせていただくことといたします。

※ 上記の予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。実際の実績等は、業況の変化等により上記予測と異なる場合があります。

以 上